

＜先週の説教から＞

『ルカ52—岩の上に立つ者として』

武田真治牧師

箴言5:10 ルカ福音書7:1~7

『福音書』は、イエス様の為された業や言葉をまとめてあるのですが、当時は紙と言っても“羊皮紙（羊の皮をなめして薄く伸ばしたもの）”という分厚く巻物になっているものであり、記す分量も限られていたために、福音書をまとめようとする者は、どうしてもそのイエス様の業や言葉の中からこれこそ残さなければと思うお話や事柄、御業を取捨選択する必要に迫られます。『ルカによる福音書』の著者であり、編集者でもあるルカもまたそうでした。今日から7章に入りますが、6章まで特にイエス様の説教（＝平地の説教）が集められて記されてきました。そして、この7章は先ず“2つの病の癒いやしの奇跡”が載せられています。このことは、この2つの出来事がやはり特に重要だと考えられたからと言えます。では、どこが大事だと考えられたのでしょうか？ふたつ目の『ナインのやもめの息子を生き返らせる』が重要な癒しであることは、イエス様が死人を生き返らせ出来事ですから、これは本当に重要な意味を持っていると誰でも思えます。それに比べて今日の『百人隊長の僕をいやす』の出来事はどこが重要だと思われたのでしょうか？いくつかの理由が考えられていますが、よく言われているは、後に分かることですが、この百人隊長の信仰を『イスラエルの中でさえ、これほどの信仰を見ることがない』とイエス様御自身が褒められたからでしょう。そこから、後の信仰者たちが自らの信仰について考え、学べるからです。

ただ、キリスト教の歴史から言えば、この出来事では、ユダヤ人（＝イスラエル人）ではなく異邦人である百人隊長が『部下を癒してください』という願いをイエス様が聞き届けられたという事実でしょう。ユダヤ人以外の民族願いを聞き、癒しの業を為されたことは、後のキリスト教が世界伝道をして行った道がすでに開かれていたと言えます。

ちゃんと読むと、この出来事の上記の後半にある百人隊長の信仰によってイエス様が癒しを行われた訳ではありません

。イエス様に百人隊長の願いを伝えた時点で、イエス様は「そこで、イエスは一緒に出かけられた」（6節）のです。この時点でイエス様はなんとかしてあげようと考えられたということが分かるのです（＝百人隊長の信仰はこの時点で問題になっていないのです）。どうしてイエス様はそのような気持ちになられたのか？ おそらく、①百人隊長は自分の癒しではなく部下（＝僕）のためにお願いしていること、②その部下は「重んじられている（＝かけがえのない）」人物であること、③取り継いだ人達の思いを受け止められた等が考えられますが、私は次の『ナインのやもめの息子』も彼女にとって“かけがえのない子ども”でしたから、イエス様は“かけがえのない者”への思いを汲み、共感して、癒しを為してくださる方だということではないでしょうか。

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 9月17日(水) 20:00
II. 9月18日(木) 10:30

聖書研究：ローマの信徒への手紙

祈祷主題：敬老祝福を覚えて

担当者：(水) K (木) M

祈りに覚える人：Aさん Aさん

ハシナの会：9月16日(火) 10:30～

【教勢報告】

主日礼拝 男19 女58 計77
祈祷会 I. 男4 女2 計6 II. 男1 女7 計8
日曜学校 幼稚科1 小中科5 計6

【次週主日礼拝】 9月 21日(日)

聖書：列王記上 17:17～24

ルカによる福音書 7:11～17

説教：「ルカ55—もう泣かなくともよい」
武田真治牧師

讃美歌：55(1)、32、157、425、472、92(1)

【次週当番表】

司式：I長老 奏楽：YN 礼拝：S長老

献金：EN YN 受付：YI SY

会堂準備：KK TK RT EN

HH HH

看板：CS 週報：SY お花：MH

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会 ・求道者会
礼拝後：・お茶の会 ・牧師と語る会・バザー委員会
・日曜学校教師会 ・幼稚園理事会
・オリブの葉編集委員会・会堂管理委員会

66 - 37

週報

2025年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

2025年 9月 14日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549